

山西省大同市への旅

今回のレポートでは、同じ山西省に位置する大同市への旅行をレポートします。大同市は山西省の北部に位置し、太原から電車に乗り3時間で到着します。有名なものとしては、山に掘られた巨大な大仏がある「雲崗石窟寺院」や、そびえたつ崖にある「懸空寺」があります。高校の世界史の教科書に載っており、世界的にも非常に有名な場所です。

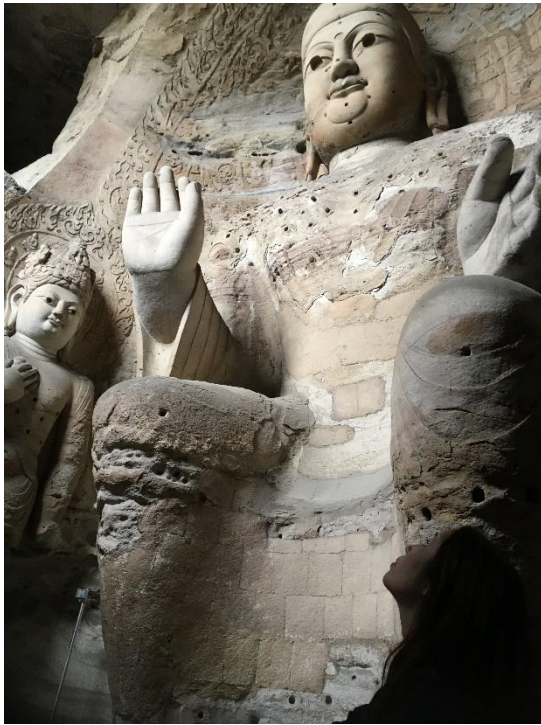
中国の旅行で気を付けたいのが、予約したホテルに外国人が宿泊できるかを確認しなければならないということです。今回の旅行では、同じ留学生の湯浅さんが企画してくださったのですが、中国人の友人が使うアプリでは外国人が宿泊できるか不明なので、何度も確認されていて大変そうでした。旅行者が良く使う外国製のアプリと比較したり、電話をかけるなどしたりして確認することをお勧めします。

旅行の初日には雲崗石窟寺院に向かいました。道の途中、突然大雨にふられてしまいましたが到着後にはやんでいました。中国の内陸部は大陸性の気候なので天気の移り変わりが激しく、晴れの日でも雨傘は手放せません。また、昼と夜の寒暖の差が激しく、昼間は30度近くあるのに夜は15度になるということも時々起こります。そのため、今回の旅行でも軽く羽織れるものを準備していきました。それでも1日目の夜と2日目の朝が寒かったので、旅行に行かれる方はウルトラライトダウンを準備していくと役立ちます。

1日目に行った雲崗石窟では、大小さまざまな仏像を目にしました。駅のある都心部からバスで1時間ほど行った場所にあり、前回行った西安同様に整備が行き届いている印象を受けました。石窟寺院に入ると、一面に小さな仏像が彫られており、その中心に10メートルを超す大仏がありました。鎌倉の大仏が洞窟に彫ってあるイメージを想像して頂けると分かると思います。山西省の特産「お酢」が多く売られていました。トウモロコシや高粱、ナツメから作った様々なお酢があり、酸っぱさの中にも甘味が感じられるものがありました。店員さんに熱くおすすめされ、私も1瓶お土産として買いました。

2日目には、懸空寺院に向かいました。駅の近くから出ているバスで向かいましたが、途中平原にあるバス停で乗用車に乗り換えさせられ向かいました。雲崗石窟と違い、懸空寺院は山の中に位置していたため周囲にはホテルやお店はあまりありませんでした。

今回の旅行の中で印象深かったことは、観光地における値段交渉です。懸空寺院から帰る際に、近くの山に行ってそれから帰らないか？と持ち掛けられましたが、タクシーと値段が同じだったため、価格交渉を行いました。10分ほど時間がかかりましたが、何度も交渉した結果、20元まけてくれました。日本では価格が決まっていることが当たり前ですが、特に観光地では値段が高く設定されていることが多いため、価格交渉するのも一つの手だと知りました。



雲崗石窟の大仏。周囲に小さい仏像が無数に掘ってありました。



お酢のお店。中にはお酢の醸造で使う瓶がたくさん展示してありました。



懸空寺院。上ることが出来ましたが、階段が非常に急だったため、大変でした。